



『家族』（6月11日）を振り返って・・・

足に病を負い、究極の選択を迫られたネパールの一人の母親の境遇から家族愛について考えました。「足を切断する」「しない」、どちらの意見にも共通していたことは、「家族への思い」でした。だからこそ、家族のことを本気で考えれば考えるほどに、難しい選択となったのではないのでしょうか。来て頂いた保護者の方にも、一緒に考えて頂きました。保護者の方の貴重なご意見に、真剣に耳を傾けるみんなの姿が印象的でした。今回の道德を通して、「家族」についてじっくり考えることができたと思います。改めて今回感じたことをお家の方に伝えられたらいいですね。

＜みんなの感想より＞

●家族は自分の命でもあり、すごく大切な存在だというのが分かりました。これからも家族という存在を忘れず、家族と向き合っていきたいです。（男子）

●家族は、居るだけで幸せになれるような大切な存在だけれど、それなのにあまり感謝を言えていないと思いました。でも、私はこの二人の親の子に生まれてきて本当によかったと思いました。だから言えるときにできるだけ「ありがとう」と言って、感謝を伝えたいです。（女子）

●ぼくはこのお話を聞いて、やっぱり家族は大切なものだと思います。ぼくは、もしもこんなことになったら切断するけれど、このお母さんは切断しないというけつだんをしてびっくりしました。（男子）

●家族には、言葉では伝えきれないほど感謝しています。それは、自分のために苦労していたり、何より生んでくれたりしたことです。命は昔から受け継がれていて、それが今、私の番ということの自覚が持てました。（女子）

●命のバトンを受け継いで、そのコーナーが終わるころに「死」があるならば、家族と一緒にいる時間をずっと大切にしたいと思った。（男子）

●母親の愛を感じました。自分の命を捨ててまで、家族に迷惑をかけたくないという思いに愛を感じました。母親はすごいなと思いました。改めて家族とは大切な存在なんだと思いました。（女子）

●ネパールの主婦の話を聞いて、改めて家族の大切さを実感しました。家族を思って自分の身を投げ打つ勇気がある主婦はすごいなと思いました。僕にとって、家族とは、「必死に支えてくれたり背中を押したりしてくれる存在」です。（男子）

●このお母さんは自分よりも大切な命を守ろうとしていてすばらしい心の持ち主だなと思いました。自分が死ぬのは悲しい、まだ死にたくないという気持ちもあるけど、その気持ちをこらえているのは少し悲しくなりました。でもそれだけの愛が十分伝わったと思います。（女子）

●家族とは、絶対に迷惑をかけたくないもの。自分を支えてくれる存在。今回の授業で家族の大切さが改めてよく分かりました。いつも自分を気にかけて色々言ってくれているのに、「分かった分かった」で片づけてしまう自分が、とても悲しいです。家族はいつも自分のことを思ってくれてるので、私も家族のことを思っていたいです。（女子）